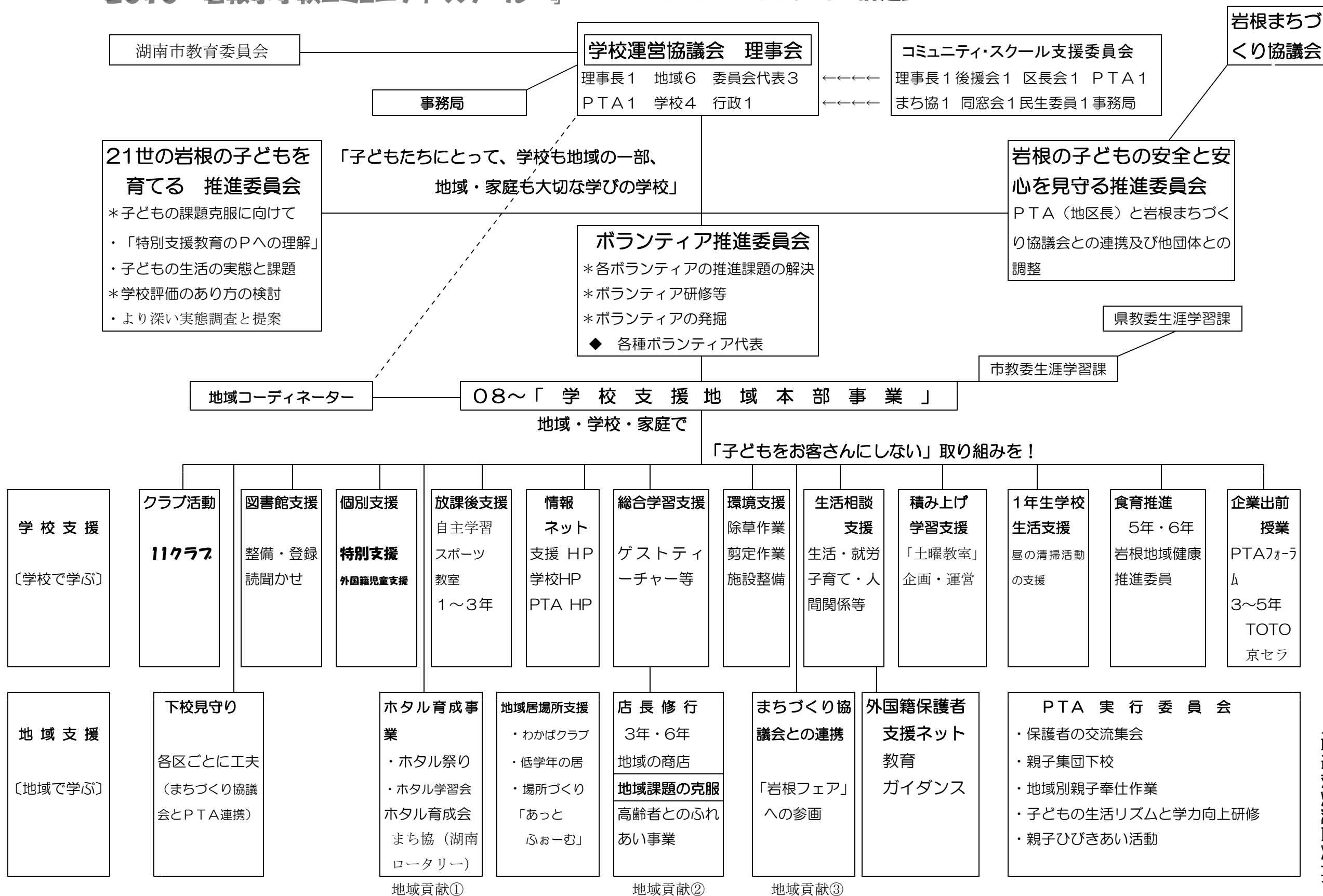


『 2010 岩根小学校コミュニティ・スクール 』 並びに「学校支援地域本部事業」 構造図



湖南省記者会見事項報告書

平成 22年 4月 1日

総務部 秘書広報課長 様

湖南省教育委員会

1. 件名

- 1) 湖南省立岩根小学校 コミュニティ・スクール「土曜教室」の開設
- 2) 「岩根小学校コミュニティ・スクール支援委員会」の設立

2. 趣旨・目的

- 1) 湖南省立岩根小学校 コミュニティ・スクール「土曜教室」

今日の子どもたちの学びは、社会の影響を大きく受け、時間を必要とする基礎的な学習が家庭学習の中で積み上げにくい現状がある。また、家庭の経済力・学力とも言われ、子どもたちの学びの二極化は本校区でも例外ではない。そうしたことが岩根小コミュニティ・スクール学校運営協議会でも議論となり、家庭の積み上げ学習が成立しにくい子どもたちに学びの場を提供することとした。

- 2) 「岩根小学校コミュニティ・スクール支援委員会」の設立

今日及びこれからも継続しそうな教育行政の財政難や混沌とした経済不況、教育課題の困難さを考えると公立学校の運営は極めて厳しいものがある。そうしたことを踏まえ、教育課題解決に向けた新しい教育システムのあり方、並びに、地域の教育力向上とまちづくりの再生をめざして、県下唯一のコミュニティ・スクールである岩根小学校では、100名を超える地域ボランティアに子どもたちの学びの応援をいただいている。今回そうした新しい学校づくりの運営を地域が経済的にも応援する「支援委員会」が設立された。

3. 概要、対象など

- 1) 湖南省立岩根小学校 コミュニティ・スクール「土曜教室」

「土曜教室」は、学校運営協議会理事会で議論を重ね、そのあり方を検討してきた。昨年12月の冬休みより試行し、本年2月には毎週教室を開催し、5月からは本格実施する。指導者は、地域を中心とした退職教職員、学習支援ボランティア、大学生の12名でスタートした。対象は、3年生・4年生の基本的な学びの積み上げが必要な児童を保護者と相談の上抽出し、児童の願いや思いを大切に実施している。

- 2) 「岩根小学校コミュニティ・スクール支援委員会」の設立

「支援委員会」は、地域の組織代表者を発起人として設立された。様々な人的、組織的な支援ネットワークを構築し、岩根小コミュニティ・スクール（学校運営協議会）の円滑な運営を経済支援する目的で組織された。言い換えるならば、「地域の子どもは地域で育てる」意識を強化し、顔の見える地域コミュニティの中で子どもを育てる学校づくりをめざす取り組みでもある。

4. 実施日など

- 1) 湖南省立岩根小学校 コミュニティ・スクール「土曜教室」
5月から毎週土曜日 会場：岩根まちづくりセンター（子どもの参加状態により学校に変更になることもある）
- 2) 「岩根小学校コミュニティ・スクール支援委員会」の設立
2010年3月12日（金）に「支援委員会」を設立
新年度の各地域組織の新役員会で、再度確認・依頼の上スタートする予定である。

5. 効果など

- 1) 湖南省立岩根小学校 コミュニティ・スクール「土曜教室」
現在の試行段階で、すでにマンツーマンの指導効果が出て、学校の教室で受ける授業姿勢が積極的になってきた。また、外国籍の子どもたちも、意欲的に土曜教室に参加し、わかる喜びを強く感じている。
今後、2対1ぐらいの指導は可能なので、参加者の増員も考えている。
- 2) 「岩根小学校コミュニティ・スクール支援委員会」の設立
本年9月には、耐震補強の改築・改装校舎も完成し、新に設置されるコミュニティ・スクールの事務所もの運営経費。また、現在お世話になっている地域ボランティアが、持ち出しで子どもの教材等を作成していただいていることを踏まえ、ボランティアの活動費、通勤費用の一部だけでも支援できるのではないかと考えている。

緑豊かな純農村も、工業団地の造成で激しく人口の増加を生み、時代の期待に応え大きく変貌してきました。そのことに伴う本校の教育課題も、地域の変貌とともに、荒れ、不登校、不審者問題等あらゆる教育課題を経験してきました。

さらに、現在の子どもたちが保護者（労働者）となる時、地域の少子高齢化の波はピークとなり、教育課題・地域自治の衰退・就労形態のさらなる変化・介護を要する家庭生活の増加や子育て困難化等、様々な課題が加速・加重する予見され（耐力の低下）日々の生活の心理的不安等は、地域自治の豊かさにまで大きく影響しそうです。

そこで、本校では、今後予想される教育課題や地域課題の解決をめざすため、「学校支援地域本部」を設置し、課題克服に向けた学びの拠点になればと考えました。

学校では、現在維持している地域の教育力を生かし、子どもの今日的課題の解決と豊かな学びをめざし、地域では、自治の豊かさ（ローカルコミュニティ）および、自己の生活や価値の高揚・受容をめざす豊かな集団（テマコミュニティの縦軸・横軸の相互のコミュニケーションの育成を求め、その中で子どもを育て、協働を促し、まちづくりをすすめる）をすすめています。



まちづくりフェアで学校紹介

1【地域の概要】

本地域は、滋賀県の南東部、国道1号線沿いに位置し、平成16（2004）年10月1日に甲西町と石部町が合併し湖南省となり、創立135年目を迎える本校は、等しい市の中央部に位置し、過去に災害や火災、等しい市を受け、そのたびに復興に向けて汗を流した地域の人々の思いが詰まった学校です。それ故に地域の人々の学校に寄せる関心は高く、支援や協力は惜しまない風土を今も維持しています。

反面、近年アパートや住宅が急増し、自治への参画者の減少、外国籍の人々の増加で共存の課題等、地域自治の運営も課題が山積みになってきています。地域自治の豊かさにも陰りが来るのではと警鐘を鳴らす人も少なくありません。

2【事業の経緯・目的】

本校は、平成19年4月「学校運営協議会・理事会」を設置し、「今日の学校教育の現状と課題について」「制度的側面」「物的側面」「人的側面」「教育内容的側面」の四側面から見直しを実施してきました。

そして、昨年度6月に「学校支援地域本部事業」を受け、教育課題の解決に向けた

取り組みを開始しました。

学校では、「確かな学び」の部で、コミュニケーション力と問題解決能力の育成で授業の改善に求め、「豊かな心」の部では、次代の地域を担う子どもたちの「自治の高揚」「順次指導性」を集団づくりの重点とし、地域とともに取り組むために、次のような地域連携システムづくりを進めています。

①「学校支援ボランティア推進委員会」

すべてのクラブ活動、行事、総合的な学習、食指導、図書館支援・情報支援、学校運営支援および教育環境づくり、放課後の遊び支援、1年生支援等幅広い分野の代表で委員会を構成し協力をいただいています。また、地域では、子どもの居場所づくり、地域行事を子どもが「お客さん」にならない主体的参画ができる行事に、「スポーツ・レクリエーション」rクラブ、声かけ見守りボランティア、店長修行（就労体験）、水と緑を守る地域環境づくり等の様々な分野で延べ200名を越える地域・企業ボランティアの方々の力をいただいています。

さらに本年度は、しんどい子どもの「基礎・基本の積み重ね学習」の来年度からの本格実施を目指しての準備が進められています。

②「二十一世紀の岩根の子どもを育てる推進委員会（学校評価委員会）」

現役PTAおよびPTAのOBを軸とし、公募や会長の推薦する委員を選出し、委員が単年度で終わらず、取組の積み上げが出来る組織が再創設されました。本委員会は、学校の経営、運営、教育内容、家庭教育の課題等の評価や地域・保護者・子どもの声等を集約し、調査、研究を進めているところです。

③「岩根の子ども生活を守る安全・安心委員会」

PTAと地域の自治組織・関係機関・団体と連働し、地域見守りボランティアを含む子どもの安全を守る対策と実践並びに情報ネットワークを調整しようと取組を始めましたが、子どもを守る組織・団体があまりにも多く、地域においては一人の人が多くの役を兼務とされていることもあり、現在は、まちづくり協議会を軸とし組織・団体を再構築しています。



下校と声かけ見守りボランティア

3【事業の内容】

①制度的・物的側面の見直し

様々な学校経営・運営の側面を見直す中で、市教委にも協力をいただき、学校教育予算の一括化、市の学校管理規則の柔軟化へも取り組んできました。また、子どもと地域ボランティアがともに学びあえる学校イメージを学校改築・改装の中でも追究して「こんな学校にして欲しいか」等のアンケートを地域に実施し、理事会で意見をまとめ、設計士・理事

の組織が子どもの課題や学校づくりのイメージを共有していくまでに多くの時間を費やしてきました。しかし、この時間が取組を充実させていく上でとても大切であると感じています。

②学習支援ボランティアと教職員の連絡・調整・確認

学習支援ボランティアの場合、個々の子どものどの部分を支援してもらうのか、課題は何か等を調整するのはとても大切です。

ややもすると必要以上の支援が入り、子どもの学びが依存型になります。この調整会議の時間設定を次の実施日までに調整する困難さは教職員や地域コーディネーターを悩ますところです。結果として夕方以降、別にボランティアに時間調整を依頼することになり、現状を克服しているところです。

また、支援ボランティアが増加するにつれ、校外で活動されている皆さんの活動を確認することも難しい状況になりつつあります。



学習支援ボランティア(特別支援)

6【評価】

今日の財政難から、こうした取組に人的・物的な資源を投入されるのは全国的に見ても、一部の地域を除いてはほとんど不可能な状態にあります。

本校でも、取組を充実していこうとすればするだけ教職員にかかる負担は増加し、こうした「学校支援地域本部事業」の地域コーディネーターの存在は、推進組織やボランティアの活動を促進・調整する上で必要不可欠な存在になります。

また、本事業は、学校を支援する事業のみでなく、結果として地域の教育力を高める有効な手段であるとも捉えています。

3年計画の事業といわず、長い目で見た事業継続を是非期待したいところです。

さらに、こうした取組を発展させていくためには、休日・祭日・夜の地域の会議等の勤務対応が容易にできる体制及び規則の柔軟化等も必要になってくると考えます。

7【今後の継続的な取り組みの予定】

本校は、多くの教育課題を抱えながら、地域や教職員の地味な積み上げと努力で今日の豊かさを取り戻してきました。

このことに安堵せず、学校改築・改装を契機に、学校支援協議会(学校運営協議会)事務室を地域ボランティアの拠点として設置し、保護者が安心して子育てができるよう相談システムの設置も急務です。また、岩根まちづくり協議会と密接に連携しながら地域づくりの一端を担えればと考えているところです。

1【事業の趣旨】

子どもたちにとって「学校も地域の一部、地域も子どもたちの大切な学びの場」をテーマとし、子どもたちが地域に出て学ぶ場を求めてきました。

また、新指導要領では、総合的な学習が縮小されることを加味し、夏休みに生活に密着した体得的な学びを子どもたちに提供することとしました。

さらに、6年生の子どもたちの6年間の夏休み約240日(40日×6年=240日)は、

1年間の授業日数に相当し、その夏休みのどのように過ごしてきたかで、学びの差がとても大きいという議論から、二極化した子どもたちの夏休みの生活や学びをどのように捉えどう過ごさせるかが協議会での課題ともなりました。



2【事業の概要・特色】

3年生は、以前から総合的な学習で地域のお店のシステムや工夫を学び、自分たちでお店を開くことをめあてにし実施してきました。

6年生は、夏休みの2日間、始業から終業までの就労体験を実施し、楽しいだけの学びだけでなく、大人の就労の大変さや、人と向き合うスキルの育成等を目標に実施してきました。

9か所の地域の事業所で快く受けいただき、子どもの素朴な労働意欲や仕事に取組む新鮮な意識が消費者・事業所を大きく刺激し、事業所自体にも大きな学びとなったことを評価いただきました。



3【事業の成果と課題】

今日の子どもの生活の生活を考えてみると、家庭でも、学校でも楽しい経験は常であり、ともに苦勞し成し遂げた経験がとても少ないことが挙げられます。そんな中で、問題を解決する力、物を大切にしてい意識、人との豊かなコミュニケーション力、労働意欲等々、沢山のものを無くす今日、今回の「店長修行」には、多くの子どもたちが前向きに参加し、堅実に仕事をすすめ、各事業所に新鮮な意識を注入し、今日までの大人の仕事ぶりに大きな影響を与えたことは事実です。次年度も、さらに事業所と連携を密にし体験の工夫をしていこうと考えています。

実践事例1「店長修行」3年・5年

実践2「地域に密着した行事及び総合的な学習」

今年度生活科や総合的な学習及び行事に、積極的に地域の人々の経験や考え方を導入し、学ぼうと各学年ごとに企画・推進してきました。

地域コーディネーターと教職員が学習の軸がぶれないように両者が話し合う調整時間の確保。地域コーディネーターが学年の学習課程を認識し、学年の発達段階に応じた適切なボランティアの人材の確保と、次の学習への学びの発展等、様々な調整が必要となり、また、地域コーディネーターの役割分担を、どこまで重ね、どこで分断するのか、取り組む内容によっても異なり、それぞれが工夫しながら進めてきました。

1【昔の遊び：2年生】

昔の遊びを教えてくれるボランティアは地域には数多く存在します。どのグループにお願いするのか、遊びの内容、遊びの道具、遊びの場所、遊びの時間、遊びの人数など、ボランティアに子どもたちと関わってもらう方法をどう持ってくるか、調整してきました。



2【思川の今と昔：4年生】

校区の中央を流れる「思川」の環境や歴史に目を向け、地域の方々から学ぶことにしました。お願いしたボランティアは、昔の写真や地図を持ち込み、目で見て感じてもらいました。また、この単元が、子どもたちの生活に密着した活動であること、単元の発展的取組、今後の移行も話し合いました。



3【スキー教室：6年生】

6年生のスキー教室の時期は、校内もインフルエンザや風邪の流行で、教職員数の少ない学校では対応に追われるのが現状です。ましてや、そうした時期にスキー教室となると、運動の特性から少人数グループをつくる必要もあり、ボランティアの応援は何よりも助けになり、スポーツの特性から、一日の実習であって、人間関係が深まる生活に



も、ボランティア関係者から声をかけられ、子どもたちは積極的につながるようにもなりました。

4【食指導：6年生】

地域の食生活を見直し子どもたちに伝えようと、家庭科の時間を利用して、栄養教諭を中心に、地域の健康推進委員さんにも食育の指導をお願いしました。この地域は、昔から食についてではでな地こ5年豊あつたこ5年踏生でも、実施。また、中学年、低学年でも、地域におも実施して



5【ミシン実習：6年生】

最近では家庭でミシンを使用しなくなったのか、子どもたちは、はじめてミシンを経験する子が大半です。特に、男性教師の担任だと、あちらこちらから子どもたちのHELPの声が上がり、1時間にもロスが増えます。そこで、地域の祖母の出番。子どもたちもすっかり打ち解け、ミシン以外にも関わろうとする子も出てきました。



6【高齢者とのふれあい体験：2年生】

核家族で生活する子どもたちには、高齢者とは向き合っていくことが、地域の高齢者から学ぶことは、高齢化社会に必要不可欠な課題です。本年も、1・2年生で実施し、地域の高齢者のふれあい広場で交流を図りました。こうした、地域の人々に学ぶ取組を、6年間を見通して考えていくことは、地域に生きる子どもたちを育成していくためにはとても大切なことだと考えています。また、地域に学ぶ取組は、地域コーディネーターの受容的な人間関係の中で広がりを見せ、学校理解、子ども理解、さらには、継続することにより、地域の教育力の高まりとまちづくりの土壌が出来ていくのではないかと考えています。



実践3 ボランティア活動の基盤となった「クラブ活動」

1【クラブ活動の概要】

本校は、地域コーディネーターが存在しない時期から、クラブ活動を地域の先生（ボランティア）に指導していただき、担当する教職員がコーディネーターとなり運営してきました。当時はボランティアのニーズは様々で、これらの価値観を受容し、子どもの学びと地域の先生の考えをつなぐ役割は、教職員にとって、自分の持つ価値観を広げ、その価値観を受容する大きな学びとなり、人に向き合う大切な研修の場でもありました。

本年度のクラブ活動の目標は、「考える子」の育成で、それぞれの地域の先生が、個々のクラブ活動の特性から、考える力を育てようという思いを込めて活動しています。クラブ活動の場として、まちづくりフェアでクラブ活動写真紹介を行いました。まちづくりフェアの作品発表、作品展発表、写真発表などを行いました。



まちづくりフェアでクラブ活動写真紹介

クラブ活動は、前期・後期で子どもの希望により決定し、クラブ活動の最初は、クラブの先生紹介から始まります。子どものクラブ長、そして、前期・後期の活動計画を作成します。

あるクラブでは、地域の先生が学校の教育目標である「順次指導性」と「児童の自治の高揚」をめざし、児童リーダーにしか一日の活動の説明をせず、最初は、クラブ員の前で地域の先生が説明をします。その後、クラブ員の前で地域の先生が説明をします。



クラブの開始式



粘土クラフト

スポーツ
いがクラブ



マジッククラブ

えるためには、クラブの先生が家で十分な計画と材料の準備や選択をしておかないと、とても収まりがつかいません。クラブの先生は、子どもたちに楽しい経験も負の経験も全部させ、「子どもをお客さんにしない」そして、「考える」クラブ活動をと、様々な工夫をいただいております。少ない活動時間にとっても苦勞いただいております。

マジッククラブは、3代前の岩根小学校の校長が地域の先生と協力して指導をしています。

1回70分の時間で、準備から片付けまで十分な計画を立てていただいております。少ない活動時間にとっても苦勞いただいております。



将棋クラブ

科学クラブ



できるかな
クラブ



ちぎり絵
クラブ



その他
5クラブ

計 11 クラブ

2【成果と課題】

このクラブ活動が、子どもの素直な気持ちやベテランボランティアからの厳しい意見も含め、学校と地域をつなぐバロメーターとなっています。地域の先生（ボランティア）と教職員が子どもたちの教育課題を共有し、どんな学校づくりをイメージしていくの学校づくりのキーワードとなっています。